

県民会館の整備のあり方の検討状況

I. 県民会館の概要・・・【資料2】，【参考資料1～4】

昭和39年9月開館 54年経過

1 設置目的

本県の文化芸術活動の拠点施設として、文化芸術活動のための施設の提供、文化芸術を鑑賞する機会の提供、文化芸術活動に参加する機会の提供などの活動を行うため設置したもの。

2 運営形態

指定管理者による管理運営

※指定管理者：宮城県民会館管理運営共同企業体（公益財団法人宮城県文化振興財団，株式会社東北共立，陽光ビルサービス株式会社）

3 施設内容

- 敷地面積 3,627.96㎡
- 建築面積 建床3,195.27㎡ 延床12,470.04㎡
- 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 地上6階 地下1階
- 構成 大ホール，楽屋10室（特別室含む），大・中・小会議室，展示室，リハーサル室 など
- 舞台形式 プロセニウム形式
- 客席 大ホール総席数：1590席
- 舞台 間口22.5m，奥行15.6m，高さ8.5m

| 参考 | 平成29年度 大ホール 利用状況 | 利用可能日数 | 利用日数実績 | ホール稼働率 | 入場者数 |
|----|------------------------|--------|--------|--------|----------|
| | | 281日 | 220日 | 78.3% | 270,315人 |

II. 県民会館の現状と課題・・・【資料3】

1 現状

- 県民会館は、開館から54年が経過して老朽化が進んでいる。
- これまでに大改修工事（昭和52年，平成2年），大地震対策工事（平成19年）や東日本大震災の災害復旧工事（平成23～24年）を実施。
- 過去5年間では、ボイラーや電気・空調設備の改修工事等として約6億円の修繕・改修を実施。
- 今後も電気設備や舞台機構設備など数億円規模の改修が必要となる見通し。

2 課題

- 立地の課題
 - ・ 中心市街地にあり，敷地が狭く，資材搬入が困難であること。
 - ・ 現地建替の場合，解体・新築工事に伴い約4年の長期休館が見込まれること。
- 施設・設備の課題
 - ・ 経年劣化による建物の内外装などの摩耗，汚損や，電気，空調，舞台機構など設備の老朽化による故障リスクがあること。
 - ・ 座席が狭い，トイレが少ないなど，快適性が低下していること。
 - ・ バリアフリー化やユニバーサルデザインなどへの対応が遅れていること。
- 施設利用上の課題
 - ・ ホール稼働率が高く，特に土・日曜日の利用希望が過密化していること。

III. 仙台市の動向について

「仙台市音楽ホール検討懇話会」において、音楽ホールが備えるべき施設機能と規模、音楽ホールの立地のあり方について検討、平成30年度末までに報告書を取りまとめ、市長に提出する予定。

1 開催状況

- 懇話会 平成29年10月設置，全6回開催，平成31年2月4日開催の第6回検討懇話会をもって終了。
- 関連シンポジウム ホールと文化振興，まちづくりをテーマに市民向けに3回開催。

2 検討結果（懇話会報告書（案）より）

- 機能 ①公演・鑑賞・発表機能，②創造・創作・練習機能，③文化力発揮機能，④まちづくり機能，⑤交流機能，⑥人材育成機能により構成。
- 規模 大ホール：2000席規模の生の音源に対する音響重視の高機能多機能ホール
小ホール：300～500席程度の多様な表現活動に対応できる多機能ホール
※その他，創作・練習部門（リハーサル室など），まちづくり部門（エントランス広場，サービス施設など），運営・市民協働部門（管理運営，地域連携諸室）と合わせ，延床面積27,000～30,000㎡，建築面積9,000～11,000㎡と想定。
- 立地 下記候補地について，立地検討専門部会を設置して検討し，課題を整理した。
候補地：①青葉山交流広場，②青葉山公園，③西公園（市民プール跡），④西公園（市民図書館跡），⑤西公園（お花見広場），⑥勾当台公園（東側：いこいのゾーン），⑦錦町公園，⑧民有地（再開発），⑨民有地（購入）＜⑧，⑨は非公表＞

IV. 県民会館需要調査・・・【資料4-1，4-2】

1 調査目的

県民会館の今後のあり方検討を進めるにあたり，仙台市が音響を重視した高機能な2000席規模の多機能ホールの整備について検討を進めていることを前提に，県民会館の潜在的・将来的な需要を見込んだホールの規模や機能などの把握と，今後の整備検討に活用するための基礎資料を得ることを目的に行ったもの。

2 調査時期

平成30年5月30日から10月31日まで

3 主な調査内容

宮城県内1000席以上のホール利用状況調査，県民会館の利用状況調査，宮城県内の興行公演ジャンル分析，ホール施設利用者等へのヒアリングやアンケートの実施

4 調査結果の概要

調査総括

現在の県民会館の高稼働状況及び仙台市内のホール不足への対応を考慮すると，県が2000席規模の施設を整備しても，施設の供給過剰となることは想定されにくい。

- 県民会館の利用状況は，興行公演が主体で集客数1300人以上の公演が6割を超え，稼働率は8～9割と高い水準である。
- 県内の興行公演ジャンル分析において，県内は音楽とステージ（ミュージカルや演劇など）の公演比率が80：20とステージ公演の割合が極端に低い。ステージ公演に適したホール不足の影響と考えられる。
- ホール施設利用者へのヒアリング状況では，大手利用団体11団体中9団体がホール不足を訴え，新たに2000～2500席規模や，1500～2000席規模の多目的ホールを求める声がある。また，県内外の教育機関・団体では，1800席以上を希望する意見が最も多く，3割を占めた。このほか，演劇やミュージカルに適した中小規模の劇場の不足が指摘されている。
- 県民会館に求められる方向性
 - 県内にホール施設を整備する際は，大型ミュージカルやポップスなど，ステージジャンルの大型興行への対応を考慮した大規模施設や，地元劇団・県民が利用しやすい中小規模の劇場が望まれている。
 - 仙台市が検討を進めている新ホール施設との機能の棲み分けや，県民会館がこれまで担ってきた音楽及び演劇などのステージジャンルの興行公演をこれまで以上に振興する施設整備が求められている。